

2025 年度 松下幸之助国際スカラシップ助成

「ブックレット〈アジアを学ぼう〉シリーズ」

共著執筆の進め方

松下幸之助国際スカラシップブックレット委員会 作成

松下幸之助国際スカラシップでは、帰国後のステップアップとして、留学研究成果をブックレット（単著・共著）として出版することへの助成および執筆サポートを行っています。共著の編者および分担執筆者は、この「進め方」に記された手順にのっとり、執筆を進めていくこととなります。

I) 出版の形態について

ブックレットシリーズは、スカラシップの出版助成をもとに、株式会社風響社が社の企画として行う商業出版です。執筆者は、著者として、版元である風響社と通常の出版同様の関係——著者は原稿を書き、版元はそれを書籍として作り販売する——を結びます。

したがって、版元は、通常の書籍制作と同様、執筆構想の段階から、原稿内容や形式等への助言を行い、また校正を経て刊行に至るまでのすべての行程を、著者と相談しながら進めます。

執筆者の出版にかかる費用負担はありませんが、執筆者への原稿料および印税の支払いはありません。

Ⅱ) 執筆サポート体制について

共著執筆者にとって、自身の研究や教育、論文執筆のかたわら、慣れない一般向けの書き下ろし原稿を執筆し、一人で出版社と向き合い本を作っていく作業は困難です。そこで、本ブックレットの執筆・出版においては、以下の人員・組織によるサポート体制が整えられています。

(1) 松下幸之助記念志財団

ブックレット出版助成、執筆者ミーティングへの参加・支援を行う。

(2) 松下幸之助国際スカラシップフォーラム委員会

共著執筆者の希望により特別シンポジウムの開催を実施することができる。

フォーラム委員会は、特別シンポジウム開催の計画から実施までをサポートする。

(3) 松下幸之助国際スカラシップブックレット委員会

ブックレット執筆者の選考、執筆者ミーティングへの参加と取りまとめ、ミーティングにおける内容相談、その他原稿執筆に関わる事柄についての相談窓口を行う。

Ⅲ) 共著ブックレット執筆の流れ

1. 刊行までの主なスケジュール

<2025 年度>

※下線部分は風響社との作業 *はフォーラムにてシンポジウムを開催する場合

- ・2025 年 7～8 月 共著企画応募期間・相談会実施
- ・2025 年 9～10 月 共著企画選考・決定（選考過程で必要に応じてヒアリング実施）
- ・2025 年 10 月 編者は松下幸之助国際スカラシップフォーラムに参加
風響社との顔合わせ
- ・2026 年 1～3 月 編者は必要に応じてブックレット委員会と打合せ
- ・2026 年 6 月 *編者は松下幸之助国際スカラシップフォーラム委員会と
10 月の特別シンポジウムについて打ち合わせ

- ・ 2026 年 10 月 * 松下幸之助国際スカラシップフォーラムの特別シンポジウム
 で口頭発表
 風響社との打合せ（事前にメール等で構想を伝達）
- ・ 2026 年 11～12 月 キックオフミーティング（風響社も参加）
- ・ 2027 年 1 月～3 月 必要に応じてミーティングを実施（場合により風響社参加）
- ・ 2027 年 3 月末日 風響社への原稿提出〆切
- ・ 2027 年 6～7 月 初校
- ・ 2027 年 8 月 再校
- ・ 2027 年 9 月 念校、装丁等の確認
- ・ 2027 年 10 月 松下幸之助国際スカラシップフォーラム時期に刊行

＜執筆の進め方＞

(1) 執筆者募集から決定まで

毎年 7～8 月に執筆者募集、9～10 月に執筆者選考・決定の通知がなされる。
（詳しくは「募集要項」を参照のこと）

(2) 執筆開始前の顔合わせ

編者は、執筆決定後の 10 月に開催される松下幸之助国際スカラシップフォーラムに参加し、風響社の編集者と顔合わせし、構想の相談と今後の手順の確認を行う。
フォーラムに参加できない場合は、各自日程を調整し、風響社との面談を行う。

(3) フォーラム特別シンポジウムの実施および進捗確認

執筆者の希望により執筆決定の翌年度の 10 月に開催される松下幸之助国際スカラシップフォーラムの特別シンポジウムにて口頭発表を行うことができる。
シンポジウム開催を希望する場合は、申請書のシンポジウムの項目にその旨を明記すること。また、共著ブックレットの編者は、この特別シンポジウムについて、松下幸之助国際スカラシップフォーラム委員会と 6 月以降打ち合わせを行い、内容を具体化させる。

編者および分担執筆者は、特別シンポジウムの発表者としてフォーラムに参加した際、風響社の編集者と顔合わせし、共著の執筆構想の進捗状況について報告や相談、今後の手順の確認を行う。シンポジウムを実施しない場合、編者はフォーラム開催の

10月から翌月11月の間に日程を調整し、風響社との面談を行う。

(3) 構想発表

編者は、ブックレット委員会と日程を調整した上で、11～12月にキックオフミーティングを行う。このミーティングでは、編者による内容・構成案を風響社に提示し、執筆計画をまとめる。

(4) 執筆から原稿提出まで

構想発表後、共著執筆者間において執筆を進める。執筆の細則は、風響社の「執筆要領」による。風響社への原稿提出の締切は3月末日。編者が原稿をまとめて、風響社に原稿を提出する。

編者は随時、原稿提出までの間にミーティングを実施する。実施にあたっては、ブックレット委員会と日程および場所を相談する。ミーティングでは、進捗状況の確認、草稿の共有、意見交換、構想の検討等を行う。

執筆に際して、技術的・専門的な助言が必要な場合、編者が風響社へ問い合わせをする。そのほか、執筆の進捗状況や執筆に関わる疑問・不安は、ブックレット委員会に相談することができる。

(5) 校正作業

校正作業は、出版社と編者の両者で行う。以下のスケジュール概要を確認すること。ただし、スケジュールは目安であり、個々の原稿や校正内容によっては変更の可能性もある。また、校正作業の日程において、都合がつかない時期がある場合、事前に出版社へ相談すること。

初校ゲラ（3月提出の原稿に対する1回目の校正原稿）は、6月～7月頃に、風響社から編者に直接送付される。初校ゲラには、編集者の視点からの修正点や変更の提案が付される。編者は、風響社のコメントや助言を参考に共著者とともに校正作業を行い、直しを入れた稿（ゲラ）をまとめて風響社に返送する。文中で用いる図や表、地図等についても、適宜風響社と確認し、データ提出等を行う。

再校ゲラ（2回目の校正原稿）は、8月頃に風響社から編者に直接送付される。編者は、風響社のコメントや助言を参考に共著者らと校正作業を行い、直しを入れた

稿（ゲラ）をまとめて風響社に返送する。場合によっては、念校ゲラ（3 回目の校正原稿）による確認作業が追加される場合もある。9 月頃には、編者と風響社との間で装丁の確認（表紙、裏表紙、帯、デザイン等）がなされる。

編者は、進捗状況を執筆者間およびブックレット委員会との間で共有する。何か疑問や不安がある場合には、風響社に問い合わせるか、内容によっては同委員会が相談を受ける。

(6) 刊行

例年 10 月に開催される松下幸之助国際スカラシップフォーラムに合わせて刊行する。

IV) 問い合わせ先

- ・執筆に関するお問い合わせは原則として松下幸之助記念志財団ホームページの「お問い合わせ・ご要望」よりお問い合わせください。

以上